京城新聞

●殖民地の貿易策（三）
法學士　山内[illegible]

イ、輸出貿易

先づ輸出貿易に對して干渉の結果は、如何なりしやといふに同島物産にして、當然外國輸出の運命を有せるものをも猶は一旦内地へ便殺し去られざるを得ざることゝなりし位なるより、他は推して知るべく、同島輸出貿易は内地本位政策に依り、甚くも衰へたるものなり、其の三十五年に於て茶税撤廢の見越のため、烏龍茶稀有の好況を示したる如きは偶々の例外に過ぎずして、之れとても砂糖消費税法の施行と内地に於ける米價の騰貴とにより、豆類の砂糖と共が内地に引き上げられたる爲め、輸出貿易全体の上に好結果を示し能はずして止みたり、其の後、日露戰爭の餘響として一時多くの米が輸出せられたる如きことあれど之れ亦一の變態たりしに過ぎず、之れを最近の發行に係る臺灣總督府民政事務成績提要第三十九年度分に徴するも、同年に於ける輸出の減少か、烏龍茶に對する内地の侵蝕に因るものなることを明かにし得可き也

ロ、輸入貿易

次ぎに、輸入貿易の方面に就て見るに同島に於ける輸入貿易は、今より十年前に當りて其の輸出貿易に比し、遙かに盛運を存したることありしも三十二年の關税改正以來内地商品の侵害甚だしく爲めに全く不振の非境に陷りたり、其の從來香港を經て輸入せられたる内地商品は勿論、苟しくも内地商品に對し類似の地位にありたるものは悉く其の影を潜むるに至れり、民政事務成績提要も亦、同島輸入貿易の衰頽が全く關税改正の結果に依るものにして、三十九年十月に於ける改正の結果が殊に與つて力あるを說き、爾來移入貿易は日に旺盛に赴けるに反し、輸入貿易は其の間唯衰運に向ふのみなれば、今にして營業品にても增入せらるゝにあらざれば、終に同島の輸入貿易は振ふに由なかるべきを示せり

ハ、移出貿易

臺灣に於ける、移出貿易即ち同島より内地に向つて送り出すところの貿易は、其の輸出貿易の不振なるだけ、それだけ殷賑なるべき道理なるが、事實亦其の如くにして、最近數ヶ年間、實に急激なる發達を爲せるを見る、尤も、去る三十三年迄は烏龍茶及び樟腦の不況を救はんが爲め、内地回漕を增加したることありし位にて、別に移出貿易を增進せしむるが如き原因無かりしかば未だ多く見るべきものとてもあらざりしかど、翌三十四年に入りては内地米價の騰貴あり、砂糖消費税法の施行あり、其の結果として、移出貿易の面目俄かに一新せらるゝこととなり、而して、其の進步の割、移入に比し一層大なるが如し

●慶尚南道 農商状況（五）
晋州

晋州　泗川へ三里、丹城へ五里、宜寧へ七里

●韓人戸口●　城内外二千七百〇三戸、一万〇六百三十三人

日本人八百九十四戸、八百六十餘人（軍人を除く）あり、之を本年一月頃の現在戸數百十戸に比較すれば殆んど七割弱の增加にして尚追々增加の趨勢あり其職業別は太略次の如し

米穀商三、農事經營者六、宿屋一、宿屋兼料理屋七、其他は在留日本人向諸食料品諸雜貨商及韓人向諸雜貨商等

△作柄●　本年八月に於る洪水は近年稀なる水量にて平水より約二丈余（晋州城附近にては）に及び流域附近一帶の地は一時一面の濁流と化し[illegible]數時間の浸水に過ぎざりしかば農作物の被害は甚大ならず却て氾濫の爲め天與の肥料を得たれは其後の照り込みと共に作物の生育頗る良好にして稲は昨年の約二割增收と見るへく豆類は雨搗稲々過多の爲めと且つ風害のため見付ら甚だ惡しく先づ昨年より約三割方の減收と見は大差なかるへし又本年は麥作甚だ佳良にして昨年より平均一割の增收なりしと云ふ

△商況●　今回通過せる各地中日本人居住地の多くは春來商況の萎微不振なるに反し當地は諸雜貨類の賣行比較的良好にして加ふるに本年は一般に近年無比の豐作と豫想せられたれは前途大に活氣に富むと云ふべし

△通貨●　當地及其附近にては新貨の流通稍々見るべきものあるも地方に進むに從ひ葉錢を專用せり

△人氣●　一般平穩にして彼我交情良好なり

△附記●　當地には半官半民とも稱すへき彼の慶尚農工銀行の支店あり現在貸付高（日韓人に對し）約八萬圓內外にて日步は大略六錢、期限は三ヶ月を普通とす又香川縣人の經營に係る韓國勸業株式會社出張所（本店は香川縣高松市資本金二十萬圓）あり專ら土地買入及貸金を業とせり現今貸付高約七萬圓、金利は月三步を普通とせり買收地は本郡及河東、泗川、固城等の各郡に跨り水田約二百三十町步畑約八十町步あり全部を通して平均投資額に對する約年一割六七步の純益ありと云ふ

俳句

○吟光會小集
舊王城香遠亭
秋の水、千鳥、冬木立

岩の裂け目法の由緒の秋の水　射石
風邪のよなはやり病や水の秋　同
川の洲に汐待つ船や朝千鳥　同
珊瑚船出る朝凪や浦千鳥　同
江の隈に裏む、家の冬木かな　同
山猿の腰掛瘤も冬木かな　同
秋の水疎林の中を流れけり　せきぢ
櫻郷にまつはる爲や秋の水　同
大阪の妓が來よまで千鳥啼く　同
黃表紙に綴る艶話やなく千鳥　同
冬木立仙人の斧拾ひけり　同
山塞に通ふ道あり冬木立　同

五月闇（六十）
河合柳葉

御室爲雅は彼是四十余日を京都なる東山の中村樓に避暑をかねて、宿痾を養つたが、保養の効[illegible]して、有繫に小一年間惱された胃病も、全く健康に復したので、愈々九月十日京都停車場から夜行列車に乘つて歸京さるゝ事となつた。それのために昨日は、滯在中見舞を受けたる知己友人を始め、[illegible]山川孤舟等を中村樓に招待して、觀宴をかねて秋別の宴を催ふした、招きに應じて參會したものは、いづれも京都に於ける上流の紳士のみで、二十名ばかりの紅裙は杯盤の間を斡旋し、誠に盛んなる宴會であつた。

かくて今日は午後十時の直行に乘るべく、君子、並に大山を伴ふて停車場に赴いた。

停車場には既に昨日の宴會に招かれた人々が見送りのため綜集ふて、侯爵を見るより叮嚀に挨拶するもあれば、握手の禮をするもある中にも山川は君子に對つて頻に何事か囁いて居る、[illegible]に屋敷へ入り込むだ後の注意であらう。

彼是する中東行の直行列車は、猛然として停車場に入つて來た。

人形箱を覆した如く、多くの乘客は、降るもあれば乘るもあつて、一時プラットフォームは修羅場の如く混雜を極めた。

御室爲雅の一行三人は、多くの見送人に擁せられて、一等列車に乘込むだが、やがて一聲の笛を合圖に列車が進行を始めると、見送人は言合はした如く帽を脫して恭しく別を告げ、侯爵も窓外に顏を出して、一同に會釋された、かゝる挨拶の中に列車は漸く速力を加へて早や場外に進むだ。

侯爵は漸く腰を下して大山に對ひ。

「丁度四十何日目に歸るのだね、まだ東京は暑いだらうね。」

「御意でございます、京都から見ますると四五度は確に異はう[illegible]かと存じます。」

するこ、這度は君子に向つて

「お前は東京に何年振に行くのだ。」

「私は三年振でございます。」

「然うか、それぢや隨分久し振だね。サア暫時く橫にならうぢやないか、些と寢て驅を休めんと非常に疲れが出るよ。」

と、やがて先づ侯爵から昏々と睡り始めるさ、續いて君子も睡に就いた、大山は從者だけに泰然として構へて居つたが、寸間すると揃へたまゝ車中の人となつた。

一等の乘客は侯爵の一行の外に一人の紳士が乘つて居たが、大津の停車場で降りたので安心してグッスリ寢た爲め、目が覺めたのは岐阜の停車場であつた、モウ其時は夜が白々と明け放れて、やがて朝暾が光を發しやうと云ふ時であつた。

一同目を覺して顏を洗つた時、列車は又も運轉を始めたが、君子は何心なく窓を開けて外を覗いて見ると、其處には西行の列車が乘客を滿載して停車して、居つたが、唯ある三等客車の窓から顏を出して居た年若き乘客は、フト君子の顏を見るより、忽ち顏色の變るまで憤怒を現し

「貴樣はお君だな、狂奴………」

と、云つたので君は其人の顏を見ると、死んだと思つた町田辰次郎であつたから、吃驚して窓を閉めた、列車は其まゝ進行した。

▲無料紹介欄▼

人事部

妊婦產婦ノ依賴ニ應ず但貧困者ニ限り無料　城南山町一丁目百廿番戶內務省免許產婆原口部矢（九[illegible]）

[illegible]其妙々なる口中齒に青春を迎へ候茲に深く感謝申候　京城齊藤齒術院御中　東京國民新聞社員　山本（九五[illegible]）

●酌婦三名入用　太平町一丁目田舍家（九[illegible]）

●仲居入用　年齡十七年より廿五六年者一名入用但料理店に心得の有る者なれば宜し　大和町一江戶善（七[illegible]）

●年齡廿五歲（妻帶者）會社銀行等の小使に雇はれたし　姓名在社（八[illegible]）

●十四五才の小僧入用　但身元引受人要す　氏名在社（八三[illegible]）

●雇れ度　年廿五歲にして普通敎育あり格極めて壯健何處にてもよし至急雇われし　氏名在社（[illegible]）

●年二十四調劑の心得あり醫院病院の生に雇はれたし　姓名在社（[illegible]）

●玉突塲ゲーム取　十五才より二十才迄の男女各一人入用相當の手當を給す　龍山旭橋通原田與吉（九[illegible]）

●廣島縣人石塚正一氏に面會したし　本町四丁目知人（九[illegible]）

●人力車夫至急十五名募集　氏名在社（九[illegible]）

●店員入用　年齡を不問市內に確實なる保人あるもの　永樂町一丁目電三六（[illegible]）

●古荷車安價にて讓り受けたし　永樂町一丁目三六番今福（一〇[illegible]）

●雇ひたし　石鹼製造に經驗ある者入用　氏名在社（一〇[illegible]）

●吳服商に多年經驗あるもの雇はれたし年十九　氏名在社（一〇五）

●官衙の給仕に雇はれたし年十八　氏名在社（[illegible]）

●被雇度　操備役海軍一等機關兵年廿六機關罐の運轉取扱へ雇はれたし普通學有語に通ず給料多きを不望　氏名在社（一〇[illegible]）

●鹿兒島縣人有馬氏の住所を問ふ　同縣人（一〇八）

物件部

●二本町より明治町に入三軒目空地三十坪附の貸家あり　櫻井時計店（七八）

●望借家　六疊四疊半各一湯殿一間並押入炊事場付の家を借りたし　氏名在社（八[illegible]）

●空地七十坪ヲンドル九間格安讓渡したし　氏名在社（九〇）

貸地　旭町一丁目高操風景き土地十坪あり御望の御方は下名へ　電話四九四番　淸韓洋行（九[illegible]）

賣地　本町八丁目通り地所貳百坪溫突八ヽ八間の建家共至急賣却致度御希望の方は御來談を乞ふ　姓名在社（九八）

賣地　本町八丁目通り地所四十坪溫突十間建家の儘格安にて至急賣却　姓名在社（九九）

賣地　京仁線富平停車場近所在上水田石落安價にて賣却す希望者は至急申込あれ　旭町二丁目京城與信所（一〇一）

京城新聞

初雪と政治季節

●●●韓人陰謀季節●●●

初雪降飛して漢城の政界將さに活氣を呈し來らんとす、各國共に政界の活動は冬季に於てせらる、寒氣と政治は殆ど密接の關係を有するもの丶如し、之れ冬季は人心の緊縮せるを以て自然奮闘力を喚起せると立憲國にありては議會の開期にして諸般の政治問題多ければなり、漢城に於ける政界の活動は全く是等の例と異りて冬期は温室内の密議を便とすればなり、漢城政客の活動は一國政務の利害を議するに非ずして全く政權爭奪の陰謀なり、政權を利用して私利私慾を逞ふせんとする陰謀なり、是を以て冬季に入るや暗闘亦時期を專として之れ日も[illegible]の觀あり、政界の事總ては必ず冬季に於て演せらる、總て此等の陰謀は狹隘なる温室に密議計謀せらる丶なり、漢城の兩班は冬季に於ては擧て陰謀團の策士たり喇叭手たるなり、陰謀は彼等の唯一趣味にして冬季は此趣味を充たすの季節たるなり、然るに統監政治の施設以來漸次に此惡風を滅し今や彼等が此趣味を充たすの餘地を存せざるに至れり、彼等が如何に狂奔盲動するも其目的たる政權獲取の望みなければなり、今尚は狂奔盲動するものなきにあらざるも幷は極て少數の者たるなり、多くの陰謀策士は其甲斐なきを洞見して鑒を擲むるに至れるなり、統監政治は此點に於て効を奏したり、余輩は陰謀團の寂滅を以て統監政治の恩澤に歸するを躊躇せざるなり、之を歎ぶもの豈に余輩のみならんや、半島國民の大部は統監政治を德として頌贊しつ丶あり然れども唯是れ陰謀團の寂滅のみ漢城内に於ける無頼政客の屛息のみ、之れ統監政治一小部分の効蹟のみ、統監政治の一階梯を過ぎしのみ、城内の人口は僅々二十餘萬に過ぎず、半島一千萬に比すれば其及ぼせる効蹟九牛の一毫のみ、與に統監政治の効蹟を發輝するは城外政治の改善にあり統監政治は未だ全く城外に行はる丶に至らず漢城十里の外は全く別天地なり此別天地に向て統監政治の光輝を送るに非ざれば與の半島開發はなし得られず、昨夏以來の暴徒は未だ跋扈の跡を止めず、地方によりて益々猖獗ならんとする狀態あり、列國の視聽は暴徒の上に注がれ居れり、之が鎭撫を速ならしめて政治の改善をなし半島國民を堵に安んぜしむるは統監政治の將さに努むべき最要務たるなり、列國に對する面目上よりするも城外政治の改善を必要となす漢城内の政治は統監政治の本分よりすれば與に一小部分のみ、伊藤統監たるもの永く任地を空にして前途の考案にのみ耽るの時に非ず眼前に橫はる急務の要事鮮しとせず速に城外政治の改善を計る如きは最も急ならずや余輩は初雪の降飛を見て漢城の政界を想ふと共に統監政治の前途を聯想して深く此感を起せり、記して以て當局者に警告す

●漢城便り

▲數日前伊藤統監には在東京日韓同志會の招宴に臨み例の調子例の音聲にて一大演說を試みられたる由に候而して其演說中自分は韓國開發を旨とするを以て自分に關する他の議譽褒貶は意に介せずと申されたる由に候

▲統監たる大任を帶べる伊藤公が他の議譽褒貶を意とせざるべきは當然の事に御座候然れども公が譽褒に喜び譏貶に怒る事の世人以上たることは何人も知るところにして其天眞なるところが公の生命に有之候記者は此塞冷の候に公が冷水を呼ぶを衷心より[illegible]に感ずるものに御座候

▲若林新任警視總監は洒落の紳士に御座候若し前總監丸山氏を以て豕の天麩羅とすれば新總監は慥に盆蕎麥に有之候此以上は世人の公評に相俟ち申候

▲中村背水氏一派の日韓同志會が統監に接近しつつあるは事實に御座候此狀を眺むる在京の李容九其他が越方行末を考へ心細く感じつつあるは氣の毒にも氣の毒の事に有之候由來疑り易きは男の心に御座候特に春畝公の心に御座候此翁必ず拜むべし決して賴むべからずとは誰かの言ひし處に有之候

▲韓國經濟協會の今日あるは幹事長市原博士の忠實なる指導に因ること多しと被存候由來博士は溫厚の學者にして官に良く民に良し來らんとする同會の役員改撰には是非共同博士をして幹事長の勞を繼續せんことを承諾せしめたきものに御座候

▲東洋拓殖の株式申込取扱は恰も韓一銀行の一人舞臺の如く相見へ申候記者は同銀行に就て多くを知らざるも株式取扱の狀より察するときは其有する信用は中々に大なるもの丶如くに有之候

▲米韓電車の車掌運轉手が全數韓人たることは乘客をして常に生命の危險を感じ亦種々の點に付不便を感ぜしむるところに有之候先頃宮内府の邦人某が不慮の死を受けしが如き全く韓人車掌運轉手の其職責を解せざるに起り申候交通機關取締の當局者は此際米韓電氣會社に向つて邦人車掌運轉手使用の事を下命せられて可然と存候

東京電報（九日發）

▲天皇陛下御發輦

天皇陛下は九日演習地へ御發輦遊さる皇后陛下東宮殿下同妃殿下韓國皇太子は列車内に見送あり特に韓國皇太子には握手の禮を賜はりたり

▲議會召集

十二月二十二日議會召集の詔勅公布せらる

▲拓殖株の盛況

東洋拓殖株式會社の株式募集は非常なる盛況にして權利株の賣買は一株四圓[illegible]

▲日哥條約の批准

日本コロンビヤ間の條約は近く批准の答なりしも手續に行違あり交換遲延すべしと

▲滿州博覽會の開設

四十五年を期し旅順にて滿州大博覽會を開き滿州經營に資すべしと計畫中なり

雜報

●英皇帝御誕辰

昨九日は英國皇帝陛下の御誕辰に相當するを以て曾禰副統監以下鍋島外務部長村田武官國分佐竹兩秘書官前間通譯官韓國各大臣各部次官は午前十時英國總領事館に到り敬意を表せられたり

●義親王の兩宮參内

義親王殿下は昨八日昌德宮に參内し兩陛下及び太皇帝陛下に御謁見ありたり

●統監の歸磯

伊藤統監は八日〇時大磯に歸邸せられたる旨電報其筋にありたり

●拓殖株應募の景況

七日迄の東洋拓殖株式會社株式申込は日本人二千八百七十八株韓人一千四百二十五株合計四千三百三株にして申込者は主として官吏にて未だ在留日本商人の申込者無きも何れも景況を觀測せる模樣なれば今明日は多數の申込者あるべしと

●拓殖副總裁及理事

拓殖會社副總裁に就ては桂首相と宇佐川中將との間に人物の撰定中にて未だ全く内定するに至らずと雖も兼て候補者として數へられたる美濃部松崎本田の諸氏は任命に漏るゝ事は明なり任命は吉原氏の頭上に下るべき模樣なれども是迚も全く内定せるに非ずと傳ふ或は意外の人が任命せらるべしとも傳へらる理事の撰任に就ても同じく桂首相と宇佐川中將との間に於て内密に人選中なりと云ふ

●拓殖株應募數

東洋拓植株式會社株式申込は六日締切後七日締切迄の應募數は七千七百九十六株にして八日締切迄の應募額は七千四百三十二株累計三万三千〇十六株なりと云ふ

●西海岸の航路補助

仁川なる立石幹外七名は今回同地より木浦鎭南浦を連絡する沿岸航路及び同地より牙山灣に入り高相島より龍塘津に至る航路の計畫をなし統監府を經て毎年六万八千餘圓宛四ヶ年間補助を受けたる旨農商工部に出願し尚李允用を社長にせる協同滊船會社は合資組織にして目下滊船三隻を有し無定期にて釜山、浦鹽、仁川、芝罘、門司に航行せるが變に滊船を失ひて中止せる西海岸の航行を再興するを以て相當の補助あり度き旨を農商工部に出願し共に詮議中なりと云ふ

●朴泳孝の近狀

濟島州に在りたる朴泳孝は同地にて病を得目下木浦に來りて療養中なりと云ふ

●滿鐵の改革

後藤總裁の大風呂敷撤せられ中村是公氏のジミ主義となりて以來滿鐵の縮少及改革漸次歩を進め來り今回先づ第一着手として理事の廢合を行ひ後藤男の道樂仕事となり居りし調査部廢せられ岡松博士理事を退き單に調査課として總務部に附き地方部も同樣久保田政周氏の歸朝辭職を待たず單に地方課として當分既成設備の外附屬地の農事利用として拓殖的方針を守るに止め又土木部秘書部をも廢し其結果として龍居杉兩氏等の退社を見るべく尚追っては鑛業販賣兩理事を一にし又現在總務部の久保田野々村兩理事を[illegible]奉天の滿鐵公所をも廢し調査役以下二百七十餘名を淘汰し更に來年一月より從來本給の十割なりし社員手當を五割に減じ出張旅費の減額等にて一箇年七十五萬圓計りの節約を爲す由

●極東航路開始

滿堡亞米利加滊船會社は明年より目下ハリマン氏の傭船となり居るニコメデア號アラビア號アレシア號ニユマンテア號の四隻に外一隻を加へて五隻の大滊船を以てポートランド及び極東諸港間に定期航路を開始せんとする意あり該航路の開始は米國太平洋岸諸港と極東との間に現に航運業を營める本邦海運業者は勿論將來此方面に航運業を創始せむとする者に對し不尠影響を及ぼすべしと云ふ

●上海の恐慌

●●●同順泰の狼狽●●●

上海及び南淸沿岸各市場に於ける經濟上の恐慌は其後益烈しくして之等諸港に出入する諸船舶が近來著しく積荷を減じたるを見ても知るを得べし尤も南淸と韓國とは貿易上の關係も極めて薄きを以て直接差したる影響は當地に及ぼさゞるべきも彼の淸商同順泰が南淸輸出の目的を以て先頃韓政府より拂下げたる多量の紅蔘は到底こゝ數ヶ月間に處分の見込立たず爲に同は目下狼狽を極め居れりと云ふ

●朝鮮研究會

同會は一昨八日午後七時より大和町東洋協會專門學校に於て發初會を開催したるが出會者二十六名にして釋尾、河合の兩發企人より規則及發展の方法等につき相談あり次に巨智部博士三宅發見兩評定官の朝鮮に關する研究資料の講話ありて會長に曾禰副統監副會長に巨智部博士を推薦する事に決し幹事の撰擧を行ひ散會したるは午後十二時なりしが同會は今後毎月第二日曜日に例會を開き研究の方法として講話、質疑、圖書、古器物の蒐集縱覽の方法を講じ各國殖民地の經營歷史等をも併せ研究し會員の増加に伴ひ韓書出版の經劃ある由にて入會希望者は會員の紹介を要し會費は毎月三十錢を徵出し當分の間雜誌朝鮮を以て同會の機關とすることに決し會員には同誌を無料にて配付すと云ふ同會の如きは時節柄有望の會なれば官民を問はず一方に偏せず多數の人を網羅せんことを望ましけれ

●若林氏披露宴

新任若林警視總監は再昨七日日本人倶樂部に於て披露の宴會を開けり、始めに若林氏より來賓一同に向つて鄭寧なる挨拶あり次に李總理大臣の謝辭あり了つてシャンピンの杯を擧げて健康を祝し談笑湧くが如く時の移るを知らず散會したるは殆んど午後十時頃なりしと云ふ、因に當夜出席の重なる人々は統監府各參與官市原一銀總支配人熊谷民長中村斡頭李總理以下各大臣其他日韓各官衙新聞記者等八十餘名なりしと云ふ

●鶴原住友兩氏の迷惑

前統監府總務長官鶴原定吉氏が大阪の住友に入る事となれりとの說を傳へたるものありしより住友家並に鶴原氏に對し種々問合せ又は挨拶を爲すもの少なからざるも是れは事實全く無根にて兩氏とも大に迷惑に感じ居るよし

●佐藤博士の銅像

順天堂病院玄關前に建設中なりし同院長醫學博士佐藤進氏の銅像は此程愈々竣工せしを以て來る二十五日盛大なる除幕式を擧行する由

●救世軍營舍建築

救世軍は新門外平洞に營舍を建築し大に其傳道に從事し而して同軍は娼妓及下等人身賣買に關する如きものに向て其特質を發揮すべしと云ふ

●十三師團死傷者

此程引揚たる第十三師團は總員約八千名にして、草賊討伐に付頗る困難を感じたるも公務の爲めに死傷せるは駐韓二ヶ年間を通じ總數約二百名、死者は僅々五十名弱に過ぎず、此等死傷者に對する恩給扶助は既に實行されたるが、本守備兵に對しては特に行賞をなすに略ぼ決し居れば遠からず其運びに至るべし

●參謀長一行の歸城

侍天教徒誤殺事件に關し遺族弔慰のため全州地方に出張したる牟田參謀長小松統監府書記官、立花内部事務官の一行は一昨七日弔慰金の交付を終へ歸途に就きたりとの報あり

●淸人强盜詳報

本月四日夜十二時頃安平北道義州郡威遠面三下洞農業朴泳章（此地第一の富豪）方に淸國人約二十五名押し入り各携帶せり銃又は刃物を以て朴泳齊、弟朴弘性、外三名の韓人及び當時同家に滯在中の三重縣人日語學校教師福田半七等に重輕傷を負はせ衣類其の他價格約二百圓の物品を强奪逃走したり其の際家主朴泳齊は所用のため義州に滯留せしを以て其難を免れたり先是同夜一時頃前記被害家の附近朴健世方に火災起りしを以て朴は之を消し止めんとせしに其の場を逃走せんとする淸人一名あり朴は其の放火者ならんと認め直ちに取押へんとしたるに淸人は其の所持せし刃物を以て朴の背部を刺し重傷を負はしめ其の機に乘じ逃走したるも現場より約六丁地點にて韓人のために捕へられ亂打を受けて絶命せり負傷者の中朴健世外一名を除くの外は生命に別條なかるべしと

●舊城洞狀況

平安北道舊城洞は慈城及江界より鴨綠江に通ずる道路の終端にあり交通險惡人馬の行通至難なるも産出物としては大豆粟米等あり戸數僅に十八戸に過ぎざるも年々家屋の増築せられ尙江岸には安東縣下より淸韓兩國船の往復の途次碇泊し殊に其交通日々頻繁となり一[illegible]要の地なりとす

●神戸高商同志會

神戸高等商業學校在韓同窓生拾數名は來る十四日（土曜日）に第二回秋季大會を掬翠樓に於て開催すると云ふ

●暴徒討伐彙報

平安南道成川東方北倉分遣所憲兵下士已下二補助員三は陽德郡内にて十月廿五日約廿の賊を擊退す又成川東北方長林里分遣所憲兵二補助員三は十月廿四日長林里東北約六里にて十余の賊を擊退す△江原道横城東南方安州分遣所憲兵一補助員五は平昌郡内にて十月二十六日賊七と衝突し銃彈丸五十を獲廿四日同郡内に賊十を擊退す追擊中同日横城郡内にて約四十の賊を擊退す△忠淸南道淸川分遣所憲兵一補助員三は十月廿七日淸川西北方約七里にて約七十の賊を擊ち八を斃し銃器を鹵獲す△江原道灰峴分遣所憲兵下士已下三補助員四は十月廿九日灰峴西方約二里にて約三十の賊を擊ち二を殪し銃一彈藥若干を鹵獲す

●守備隊移動

京城駐屯騎兵第六聯隊一中隊は十一月三日京城に到着△慶尙北道慶州西北方德谷の守備隊は十一月四日撤去す△慶尙北道慶州守備隊は十一月一日下士已下　名に改む

●辻屋落成祝

松浦源治氏の經營事業たる辻屋商店は今回新築落成したるを以て開店十五年祝を兼ね昨日落成祝を擧げたるが其盛宴には多數實業家官公吏新聞記者等出席したる由なり

●妻木博士の出發

韓國工事顧問妻木工學博士は愈々本日（九日）午後十時四十分發列車にて出發し馬山浦釜山の工事を視察し歸朝す

●憲兵本部の將校補充

憲兵隊本部附として矢野憲兵中尉今回補充され近日着任す

●牟田參謀長一行歸任

牟田參謀長一行は十日歸任の豫定なり

公人私人

▲野田益次郎（公州財務監督局主事）[illegible]入京山本旅館
▲石原鼎之助（咸興農工銀行支配人）[illegible]
▲林文太郎（平壤鑛業所長）七日歸任
▲上林敬次郎（度支部書記官）八日入京本旅館
▲山岡義五郎（釜山稅關長）八日入京[illegible]旅館
▲福井梅太郎（同主事）同上
▲矢田與之（石川縣農業株式會社々長）[illegible]日大邱へ向け出發
▲北尾榮太郎（同取締役）同上
▲與健藏（大藏省技師）八日釜山へ向け出[illegible]

近事片々

▲祖國●に於ては今や海陸の大演習に[illegible]
髯毅方の發雜茲を先途と勇と器を鬪は[illegible]
▲其狀●恐怡も實戰を見るが如くならん[illegible]
▲陛下●將に風鑾を西部に下されん[illegible]
▲百官●の供奉すると共に諸星亦風鑾[illegible]
して西部に下る[illegible]政界の中心も[illegible]
▲四十●五年には滿州博覽會開設の計[illegible]
りとの報あり果して之れ開發に資する[illegible]
▲博覽●會なるものが費用の割合に効[illegible]
りや否は頗る疑問也兎角祭禮騷ぎに[illegible]
▲韓國●博覽會の如きも實際に於て[illegible]
に資する所僅少なるべく當局者深く[illegible]
▲實例●昨夏の博覽會に徵するも可[illegible]
や徒に祭禮騷ぎに終るが如きは甚だ[illegible]
▲淸國●に於ける排日兇徒も頑强にして[illegible]
次第増加の傾ありと聞く是等閑に付す可ら[illegible]
▲淸國●の排日兇徒は政治上より來るもの[illegible]
には非ざるべきも或る煽動者に依り動[illegible]
▲是を●以て韓國暴徒と同一視すべから[illegible]
宜しく根元に向て大斧鉞を加へて膺懲[illegible]
▲然れ●ども兇徒の蜂起は其原因を一[illegible]
▲淸韓●共に日露戰役に於て嚴然たる[illegible]
緩慢なる懷柔策は却て渠等を驕慢にする[illegible]
▲淸韓●人共に弱味を見すれば直に狎れ[illegible]
を以て渠等に望まば今日は全く屛息半[illegible]
▲露國●が嘗て滿州經營をなすや能く[illegible]
輕侮の念を起す此點に於ては共に度し[illegible]
▲流石●に露人は支那人統御の術を解せ[illegible]
を示しつゝ渠等を緊縮せしめて統治[illegible]
▲帝國●も此點に就き大に戒嚴する必要あ[illegible]
▲韓國●の事も然り此手心を巧に應用す[illegible]
に於て其歸服の度速なるべし是肝要の[illegible]
▲如何●に反抗するも到底甲斐なき悟[illegible]
▲淸韓●經營は全く同一の策に依らざる可[illegible]
むることぞ早道なれ[illegible]
▲李容●九君不相變志士を以て諸所に招[illegible]
らず宋襄の仁は第一の禁物之を戒めよ[illegible]
つゝあり終には其目的を達し得らるべき[illegible]
▲帝國●議會開期の近づくと共に議長問[illegible]
八釜敷なれり鹿は多數黨の長谷場純孝氏[illegible]
▲中野●武營大石正巳島田三郎氏杯の呼聲[illegible]
もあるが多數黨にしてやらるゝに至るべし
▲米國●大統領となりたるタフト氏今日[illegible]
の効蹟の半ばく同氏夫人の力に依ると云[illegible]
▲タフ●ト氏陸相たる時代田舍紳士タ氏[illegible]
輝く勳章なきを訝る夫人胸中にありと云[illegible]
▲米國●人の誇りは有形の勳章に非ずタ[illegible]
夫人が良人の勳章胸中にあり[illegible]は彼女の誇[illegible]

胸三寸 (二)

軈て滊車は永登浦を發し暗を縫ふて水原の停車塲に着きし頃は夜も漸く更け行きて十二時過ぎとなりけるが男は再前のビールに陶然として醉ひしものか鞄を枕に腰掛けの所にダラシなく横ばり高き鼾を掻きながら熟睡せしが女は何うやら斯う深き憂ひに沈み居るものゝ如く頸を襟に埋め兩手を懐に差し込みて痛く思案に掻き暮れ居る樣子なりしが果ては胸の苦痛に堪へ難くやありけん男の顔を覗き込んでは [illegible] 怖しい此のやうな男とは露知らず、肌を許したが此の身の誤り、靜岡へさへ行けば何の氣苦勞はないとは言ふもの〻それも何うやら嘘らしくオ、ゝれいつその事男の氣の附かざる間に爰より引き返へさうかしら……」と、女は幾度か窓より顔を差し出しては此の次の驛からはと決心せしことも屢々なりしが流石は女心の斯うと斷行の出來兼ねしと見ゑ躊躇ちなりしが軈て滊車が烏致院全義を過ぎて太田に停車するや女はいよいよ心の臍を固めしものか密つと男の氣に附かざるやう棚の鞄を引きおろし褞袍の手提げを持ち手早く列車より下り急いで改札口に赴きて切符を示し人力車を雇ひて中川といふ宿屋に着しヤレ〱安心とほつと吐息をつく間もなくがら〱と一輛の車の音玄關の處にて止まりしかば女はハッと不審に思ひもしか男が妾しの居らざるに感付きて後追ひ掛けて來りしにはあらざるかと思ふ途端に部屋の障子はからりと開け放たれたりしがそれと同時にズカ〱と男は血相替へて入り來りぬ、男は忽ち聲荒らげ「人、馬鹿にするない、手前俺れの蔭で女郎に賣られやうとする所を助かつたのぢやアナーか、手前其の時何んといふたか、よもや忘れましたとは言はれめイ、厭で京城に皈るなら皈つてもいゝがよ、俺も金の成る木の木の股から生れて來た兄哥ぢやアナーから少しやア慾も知つてらア、イヤサ、ヅベコベたわ言はチー、サー耳揃へて百五十圓の金今爰で還へして貰ふ……」と倶利加羅紋々の右の肌をば脱ぎ諸肌を揺きながら啖呵を切りたり

赤心流露

左の一篇は在高知縣高知市浦戸町横山シカなる婦人より暴徒討伐に從事せる巡査討伐隊に宛て慰問袋に添へて寄贈し來りたるものなり

芭蕉たゝく雨はそう虫の音さへ打そひて秋のあわれこゝ一つにあつまる心地して

遠征の君に

雨の夕　横山しか

塔かたきこの夕べそゞろ遠征の君しのびあげ参らせ候君國の御爲めとは申しながら其御勞苦やいか計りとはるかに推し参らせ候いさゝか慰むわざもがなど存じ候へども只々わづかながら御笑ひ草とも相成候はゞいかばかり幸ひかくぞたゞ候はむます〱御まめやかにて折角御つくし給はむ御事切に念じ上候かしこ

ながら月

京城の初雪

京城測候所よりの通報に依れば數日以前より大陸方面は廣大なる高氣壓に占有せられ南滿地方は本月六日以來引續め氷點下三四度乃至七八度の最低氣温を告げ韓國に於ても北部及內陸地方は冷却可なり▲酷しく天氣は各地一般に晴明を持續せしが七日午前十時 [illegible] 氣壓配置による [illegible] 近を豫想されしが當京城地方にては此時刻より氣温の下降漸く急劇にして今曉六時頃風位北々東に轉向すると共に氷點下二度五に下降し黃海北部の低氣壓接近と共に天候甚だ險惡に陷り午前九時四十三分に至り本年の初雪を見たり繼續二時間許りにして中間初霰をも交へり此れを昨年に比すれば一日遲かりし

雀百迄雄鳥を忘れず

……齒ツ欠け婆さんの返り咲き……

愛新町は花に緣ある某樓にれさよとかいふ梅干婆さんあり此れでも若い時は鶯啼かしたこともあらうなれど何にしろ行年六十有余歳の耄碌婆さん實からいふと享年と來るのが普通なれど後生知らずの此の婆さん氣丈は却々若いもの〻雀百迄雄鳥を忘れずとやらの譬へ通り水鼻汁を垂らして腰を叩くやうになつても色氣は何うして盛んにて朝に夕に若い妓兒が客と添寢の睦言を聞くにつけてもれさよ婆さん羨ましくて溜らず「イ、エ私しも今一度若い娘になつて見たいね」と歌つてもつかぬ愚痴をこぼす丈ならば又しても聽ては孫兒の手前をも憚らず赤い襦袢に派手な着物を着帳塲の前に坐つては皺だらけの眼尻もて來る客〱毎に色目を使ひ居りしもの〻誰とて還ういふ片足棺桶的の耄碌婆に引つ掛る糭りものはなきにぞ婆さん大に落膽し何とかして彼の世の土產に若い男と一夜の添寢が仕て見たいと焦慮り居る所同家の板塲に平目とかいふ顔の平つたい頭み肌の小意氣な男が傭てより婆さんの若返へりしを見て取り或る時ソレと無く水を向けしに婆さんはオホゝゝと許り笑ひとやら苦しうない近う〱と板塲の手を握り締め果ては婆さん希望通り彼の世への土產の要領を得たは良きもそれからといふものは婆さまスツカリ夢中になつて了ひ時には妓兒衆にも負けず男の悅ける語で爲す事そいつしか此の事が樓主の耳に入りたれば飛んでもない婆さんと早速意見を加へ板塲をば直ちに暇を出し且つ今後の出入りをも嚴重に止めしより婆さん大に閉口して了ひしが其の後婆さん何うしても煩惱の夢醒めず平目の住み居る大和町のオンドルに足繁く通ひにき(つゞく)

鼻の價一千圓

……近來の珍訴訟……

近頃の珍談ともいふべきは愛神奈川縣橘樹郡中原村字小田中八〇〇農小宮仙藏娘れ宮(二十)は生れつき鼻の右側に大きな黑子あり近頃又次第に脹れ上り年頃の事とて嫁入りの妨になるより困り切つて居た所へ去八月中旬或人の勸めに依り橫濱市北仲通二丁目醫師名幡松哉に診て貰ひしが斯麼ものは藥を塗れば譯なく取れるとのことに喜び勇んで與へられし藥を塗り付け [illegible] 取れるか明日 [illegible] れる所が却つて激しく痛み出し一向効能のある樣子なきより一生嫁にも行けぬことかと每日〱泣の涙で過し居たり然るに其の月三十日の朝床を離れ何心なく鼻に觸つて見ると黑子と共に大事の鼻まで缺け落ち居たるよりキャツと驚ろいて卒倒した騷ぎに家人驚付け缺鼻を拾つて早速橫濱野毛山病院に入院せしめたれど迚も元の通りにはならぬとの事に更らに大學病院に入れ一ヶ月余の手術でどうやらかうやら鼻の形に作り上げ一度つぶれた迚も元のやうな形には行かぬにぞ父仙藏は大に憤り娘の鼻を落した名幡醫師を反對に一鼻明し與れんと九月十三日附濱組台石橋辯護士を代理人として横濱地方裁判所民事部へ損害賠償金一千圓の訴訟に及びたるが今日愈よ該公判開廷の筈なり

▲店員評判記豫告▼

商業界の發展に連れて商店の繁昌を企圖するには主人其の人が敏腕にして且つ信用に富まざるべからざるは勿論のことながら又其の商店に身を委ぬる幹部員たる支配人及び番頭小僧諸君が能く主人の命を奉じ加へて商略に長けて居らなければならぬ今若しも顧客の側からいふときは各商店に於ける幹部員の良不良に依つて其商店の信用如何が果して何うであるかと思ふに至るは是れ至當の道理である此の理から押して世人は京城は勿論龍山仁川及び各地方の商店に於て如何なる人が商務を支配し且つ商務に從事しつゝあるかを尋ねたく思ふは言ふ迄もないことである依つて吾が社は爰に鑑みる所あり近日より之が商店の主人及び支配人番頭小僧諸君の商買振り及び經歷を記逃品評し以つて普く江湖に紹介しやうと思ふ若し萬が一にも此の紹介に依つて商界に稗益する所ありとすれば吾が社の本懷之れに過ぎぬのである

十一月九日

京城新聞社

元觀察使を強迫す

平安北道定州郡盧德煌(三十)韓承圭(二十)田錫健(三十)康夢落(二十)承昌一(三十)の五名は何れも無職者なるが四五日前上京し元同道の觀察使たる西部[illegible]石坊治洞李根豐(四十)なるものより百余圓を强奪せんとの目的を以て昨今同人に迫りつゝある事を一昨日午後三時頃西部警察署にて探知し直樣五名のものを捕縛したり

ベッセル氏の眼玉三角

一昨日午前十一時頃南山町四丁目一番地津久井芳太郎方同居農商工部蠶業試驗所書記松山安次郎なるものが折柄の日曜を幸とし半ズボンにハンテングキャップといふ輕裝にて一挺の獵銃を肩にし西大門外なる岩洞附近に出掛け好き獲物もかなと四邊を窺ひつゝある折しも彼方の高丘に一羽の鳩落ち居り盛んに餌をあさりつゝあるを認めたれば同人は御座んなれと許りに肩なる獵銃をば手に取り直し聽て狙を定めて引き金を曳き一發ドント放ちたりしに彈丸は他に外れて鳩には命中せざりしが其の際附近に居りし例のベッセル氏は此の時ならぬ銃聲を聞き付けて一方ならぬ打ち驚き同時に自己が飼養せる鳩を射んとせしは不埒の至りと許りに震へながら立腹し直ぐ樣安次郎を引き捕へ附近の派出所に同行し斯くと訴へ出でたりしが其の時に於けるベッセル氏の顏付きはまづポンチ繪的のものなるべしとのことなり

女房を窃んだは九年前

七日午後三時頃西署の刑事巡査が同部社洞居住平安坊を密行中李相吾(二十八)方にて突然アイゴーの悲鳴を上ぐるものあるより取調べたる所同所居住金輔鉉(五十)と相吾の二人が同所居住李相春(三十)なるものを柱に縛りつけ棒を以て拷問し居るより一先之を鎮め其理由を尋ねたる所相吾の申し立てに實は自分の妻が一週間前家出なし行衛知れざるが多分相春が誘拐したるならんと思ひ斯る始末に及びたりとの事なりしが兎も角右三人は其まゝ本署に引致されたり

一昨日の初雪

一昨日は近頃打ちつゞく秋晴にも拘はらず俄に一週一日の日曜日より空は一面に掻き曇り加へて寒氣さへ烈しく俄かに [illegible] 用意さへ [illegible] 程なりしが聽て [illegible] 白きものチラ〱と降り出し其所等此所等の犬の子はさも嬉しさうに往來を飛び廻り子供等は「雪が降つて來た〱」と喜び騷ぐ中に何時の間にやら雪は降りやみしと見る間に續いて霙バラ〱と降り出し雷鳴さへ加はり天候何となく穩ならざりしが間もなく空は少しく晴れ雨雲アチ等此所等に迷ひ離せしが午後四時頃に至り又々一天掻き曇り還度は本降りとなり夕景頃降りやみしが夜に入りてよりは頓に寒氣烈しく往來は行き來の人も稀なりき朝鮮特有の三寒四溫何れはソロ〱と三寒に取掛りしことなるべし

少年の出奔

明治町二丁目二十七番地有田美哉(一七)は一昨日午後八時頃より旭町一丁目の飲食店加納たき(一九)方にて二時間余飲食し大に醉つ拂ひ其揚句自分は歸るから其處まで見送り [illegible] れよと前記たきの手を取り立ち歸りたるが內心ソツとタキの色香に迷ひタキをば遂に駱洞の蝸甫屋に引込みて大騷動をなすを蝸甫屋の主人驚いて其旨南部署へ訴出たれば有田は其儘引致さるしめたり

韓家の火事

西部新村三十二統二十三戸禹鍾翊方にて一昨日午前九時炊事場より出火家屋に燃へ移り溫突二間を烏有に歸せり

カルボに振らる

某役所の雇渡邊某は中々目尻の下つた奴にて新町で五圓を費ふより大安賣りのカルボの方が吾が財布の經濟は兎も角韓國政府の財政上大に好都合なりとの大々的謬意見の下に常に駱洞なるカルボ屋へ通ひけるが一昨晩は何んとした事か大に亂暴をやつたので南部署へ引致されて大目玉を喰はせられベコリと計りに引下りたり

龜屋の抽籤

先般來景品附冬物賣出し中なりし本町三丁目龜屋商店にては豫定の通り一昨八日同店樓上にて各新聞社員及び有權者の重なる者數名立會の上公平なる抽籤を執行したるが一等は一六七八番にして委細は廣告欄にあり因に二等は武井氏四等熊谷氏六等全昌錫七等松屋なりといふ

廣告

落語

湯屋番

（六） 三遊亭圓遊口演

若「ターヤオヤ亦戻つて來ちまつた湯屋の奉公てへものは疲勞れるもんだなア、ア、此處だ此處の湯屋ア二度通り越やアがつたへエ御免被下まし

亭主「ガラリと御明被爲たが其處は女湯で御座いますが男なら此方を御明なすつて……

若「私は御湯に參つたんぢア御座いません於玉ケ池の藹樂もんでございまして河内屋の女郎屋の好い人に成て居り升一晩行ないと何故來ないの妾は行度も鵜籠の鳥和郎の方から來て與れなけりやア妾は焦れ死に成うますなんて手紙が熱り升錢が無いから行ないと云つて遣ると御金子杯は何うでも好いから來て呉れ來ないと取殺すなんて手紙で喧嘩なんぞを爲て居る人間なんでがすがナ

亭「不意を食つて判然分りません

若「私にも分りません

亭「何爲に御出被爲たんで

若「於玉ケ池の哥兄に願うて此方へ奉公に參りました

亭「ハア和郎さんかい金滿家の御子息さんだつて云ふのは……阿父さんを兵隊に出さうなんて願つたのは……

若「へゝ、……兄貴ん處へ厄介に成て居るのも氣の毒でゲスから今日から運上爲て一生懸命に稼る氣に成て來たんでござい升

亭「貴郎見た樣な人が時々來るが番臺を遣つて見度いの釜前がいゝの外廻りが好いの女湯の流しが遣つて見度へのつて色々な事を好まれて困るがね和郎さんも其御中間でげしやう

若「流石は多くの人に御交際丈けに能く御存知でげすなア私は釜前を遣つて見度いと思ひます

亭「夫やア感心だねへ

若「一寸伺ひ升が釜前と云ふと熱芋屋見たいに冬杯は火の前へ坐つてあたつて計り居て薪杯をくすねて置たり何か爲るんでせう

亭「戯談ぢやア無い世薪杯をクスねられて堪るもんか

若「然うですかぢやア何卒是は擅那へ御内密で

亭「私は主人でゲス

若「此りやア恐れ入ました夫では恐れ入ましたが外廻りを一ツ……日當の五圓宛も與れて衣類を着て今日は歌舞伎座の慈善へ行うじやア無へかとでも云つてりやア好いんでげしやう

亭「然んな氣樂な外廻りは有りません湯屋の外廻りは木拾ひでござい升ョ

若「那れは何うも御斷り申しませう不潔無袖に膝切股引、紙の帶、親籠を擔いで薄板剥しの劍突喰ひ日向ぼつこの半睡り、雨風雨の表運動、死れつこちの頭痛

亭「よくしやべりますなア

●新聞料 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵税一ヶ月金拾參錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢▲廣告五號活字十九字詰一行金二十錢
發行兼編輯人 秋山忠三郞
印刷人 高木久馬太
發行所 京城 新聞社